

令和5年度 教育事業
「SUMMER ADVENTURE」
 ～仲間とともに明日へのチャレンジ～

1 趣旨

能登の里山里海で自然環境及び歴史・文化資源を活用した長期宿泊体験を通して、初めて出会う仲間とともに互いに協力し合うことで、よりよい人間関係を築き、課題解決する力を育む。

2 日程

- (1) 期日 事 前:令和5年7月30日(日)日帰り
 本キャンプ:令和5年8月5日(土)～8日(火)
- (2) 参加者 小学校5・6年生 31名
 (5年生:男子9名、女子6名、6年生:男子8名、女子8名)
- (3) 協力団体 市民活動団体「長手島」
- (4) 活動内容
 ・事前キャンプ(日帰り)

7月30日(日)	
9:30	受付
10:00	開講式 アイスブレイク
10:30	熱中症予防対策講義 講師:大塚製薬工場
11:30	昼食
12:00	プロテクター フィッティング
13:00	サイクリング
16:00	閉講式 解散

・本キャンプ(3泊4日)

8月5日(土)【館内泊】	8月6日(日)【館内泊】
9:30 受付	5:00 起床・清掃
10:00 開講式 アイスブレイク チームフラッグ作り	6:00 サイクリング(柴垣海岸)
11:30 昼食	6:30 海岸清掃
13:30 いかだ体験	7:30 朝食(サンドイッチ)
17:00 ベッドメイキング	9:00 SUP・砂像造り体験・磯遊び
17:30 野外炊飯(やきそば)	13:00 昼食(弁当)
21:00 入浴	14:00 サイクリング(帰所)
21:30 振り返り・翌日会議	16:30 野外炊飯(ジャンバラヤ)
22:30 就寝	19:00 入浴
	20:00 振り返り・翌日会議
	21:00 就寝

8月7日(月)【宝達志水総合体育館泊】	8月8日(火)
6:00 起床・清掃	5:30 起床
7:20 朝食(おにぎり)	6:00 朝食(防災パスタ)
8:40 宿舍点検	8:00 マイクロバス体育館出発(帰所)
9:15 マイクロバス交流の家出発(宝達山)	9:30 サイクリング(次場遺跡)
10:00 宝達山登山開始 登頂後:昼食休憩	10:00 弥生人体験・火起こし体験・勾玉作り
13:30 下山開始	12:30 昼食
15:50 宝達志水総合体育館到着	14:00 サイクリング(帰所)
16:00 入浴	15:00 シャワータイム
17:00 夕食(防災カレー) 夕食後:花火	15:30 振り返り
21:00 振り返り・翌日会議	16:30 閉講式
22:00 就寝	17:00 解散

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

1. 事前キャンプ「熱中症予防対策講義」

夏季の野外活動では熱中症等が心配される。熱中症の対策として、参加者が熱中症についての知識を身に着け、自ら対策することができることが重要である。講義では、経口補水液を製造している株式会社大塚製薬より講師を招き、熱中症の具体的な症状や、飲み物を飲むタイミングなど、熱中症の危険性と対策を教えていただいた。今回の事業では、具合が悪くなる前にスタッフに自分の体調について伝える参加者がいた。最初にこの講義を受けたことにより、自らの体を意識して活動することができた。

2. 本キャンプ

本キャンプでは、いくつかの活動にミッション（課題）を設定した。そのミッションを班の仲間と協力して解決することで食事や食材を得ることができるようにした。

① 出合いのチャレンジ（仲間作りゲーム、いかだ体験）

仲間作りゲームでは、班の全員が限られた回数でフラフープに石を入れるミッションを設定した。活動がうまくいかない場面では互いに「前向きな言葉」を掛けることを意識して、ゲームのクリアを目指した。クリアした班は昼食（カートンドッグ）の材料を獲得し、班の仲間と楽しく調理しながらコミュニケーションを図っていた。

いかだ体験では、池に浮かぶ食事券を獲得するミッションを設定した。道具を運び、組み立てたり、声を合わせて漕いだりと協同する姿が見られた。1日目の活動を通して「班の友達とどうしたら昼食をゲットすることができるか考えることがとても楽しかった。」「初めて会った友達と協力していかだを組み立て、声を掛けながら食券をゲットできたからうれしかった。」という仲間を意識した感想が多かった。

② 能登海チャレンジ（海岸清掃・SUP体験・砂像造り体験、磯遊び）

サイクリングで海岸まで移動し、海岸清掃をした。これまでに海岸清掃を経験した参加者は少なく、海のごみの種類の多さに驚いていた。

SUP体験では市民活動団体「長手島」に指導していただいた。何度も海に落ちながらも果敢に挑戦することで、SUPボードにうまく乗れるようになり、やがて上手にオールを使いこなす自分の思い通りに進む姿が見られた。

砂像造りでは、与えられた課題をクリアすると昼食を得ることができるようにした。日本の有名な景勝地や交流の家のキャラクターを砂で立体的に表していた。「仲間とどのようにしたらうまく作れるか協力しながら作成することができた。」と関わりを楽しむ姿が見られた。

磯遊びでは、柴垣の海に潜り、生息する魚を捕まえた。シュノーケルを着用して海に入ったことがない参加者も多く、「初めて海の中で泳いでいる魚を見た」という声が新鮮だった。

③ 能登山チャレンジ（宝達山登山）

宝達山登山では、植物オリエンテーリングをしながら山頂公園を目指した。個別に植物の名前に関する問題用紙を配付し、班の仲間が全て記入できると昼食を得ることができるようにした。班の仲間全員のワークシートが埋まるように、協力して植物を探していた。また、互いに励まし合ったり、歌を歌って元気づけたりして登頂を目指した。

④ 弥生人チャレンジ

交流の家から吉崎次場遺跡公園までサイクリングで移動した。吉崎・次場遺跡公園では、学芸員の解説を聞きながら、遺跡を見学し、羽咋市の歴史について学ぶことができた。また、弥生人の服装と言われる貫頭衣を身に着け弥生人になりきり、火おこし体験とまが玉作りをし、弥生人の生活や文化に触れることができた。

(2) アンケート結果について

- ①「SUMMER ADVENTURE は楽しかったですか。」という問いに対して、「とても楽しかった」及び「楽しかった」を合わせた肯定的な回答が100%となっており、高い満足度を得ることにつながったと考えられる。
- ②「弥生人・サイクリングを通してチームワークを高めることができましたか。」という問いに対して、全体の93%が肯定的な回答であった。参加者からは、「後ろに伝言をすることができた。」「みんなに速さを合わせて行動できた。」などの声があった。チームメイトと関わりながら行動しようとする意識を持ちながら活動できたことがうかがえる。
- ③自由記述から、「次の日に必要なものを自分たちで考えたことが成長につながった。」という意見があった。毎日の振り返りの中で、子供だけで持ち物や集合時間などを考えた「翌日会議」を行ったことが自立への自信につながったといえる。
- ④「食べ物をゲットするミッションゲームが楽しかった。」という意見や、「ミッションをクリアしたときに達成感があった。」という回答があった。期間中に数多く設定したミッションが、肯定的な意見につながったことがわかる。また、活動自体に目的を与え、共通の課題に取り組ませることはグループ内の交流を活発化させていた。

(3) 成果と課題

① 成果

- ・事業満足度は、29名中24名が「とても満足」、4名が「満足」、1名が「やや不満」という評価であった。全体としては高い満足度を得ることができた。
- ・事業期間中の食事をミッションのクリア報酬にしたことは、グループの団結力を高め、協力することの重要性や魅力に気付くことにつながった。アンケートには、「仲間と協力しないとできないことに挑戦できた」「ミッションがあって、意欲がわいて楽しめた」という意見があった。
- ・本キャンプ期間中の食事は、全て自分たちで調理して用意した。調理の回数を重ねるうちに、後片付けや調理の分担などを素早く決定できるようになった。周りを見て必要な作業に取り組むことができていた。
- ・熱中症予防講座を全参加者が受講することで、熱中症への危険意識を高めることができた。また、十分な熱中症対策を取ることによって安全に実施することができた。
- ・3泊4日を通して、日を追うごとに仲を深めていく子どもたちの様子を見ることができた。同時に友好的な関係を築き、理解し合うためには一定の時間が必要であると感じた。話すことが苦手な友人の発表を安心して見守り、穏やかな表情で傾聴する子どもは、期間を通して友人の特徴を理解していたと考えられる。
- ・参加者が、初めて出会った人と仲間になることができる、という経験を得られる時間を大切に。「仲間づくり」のために、各活動で作戦会議の時間を意識的に設けたことは、チーム内の結びつきを強め、子ども同士が積極的に関わり合う姿に繋がった。

② 課題

- ・猛暑により、サイクリングの活動を一部中止した。事業で利用したサイクリングロードは日陰の無い道が多かったことも中止の要因であった。
- ・夏季の屋外活動では、体力の消耗による飲料の消費が激しかった。事前の想定を超える量の飲料の消費により、急遽追加購入をする必要があったため、事前に想定以上の準備が必要であった。
- ・参加者の安全確保のために各班2名ボランティアの参加を募ったが予定人数に足りず、各班1名のボランティアで実施した。そのため、活動中にトラブルが発生した際には班全体の活動を休止することとなった。職員の到着を待つ時間が発生し、登山では班ごとに登頂までの時間が大きく異なった。
- ・参加者によって自転車の習熟度に差があった。事前のアンケートで「自転車に乗ることができない」という回答が1件あり、班活動時の安全を確保するため特別な対応を想定する必要があった。当日は本人の練習成果もあり安全に班で活動することができた。

4 事業の様子

(1) 事前キャンプ



【熱中症予防対策講義】



【サイクリング】

(2) 本キャンプ

① 出会いのチャレンジ(仲間作りゲーム、いかだ体験)



【仲間作りゲーム】



【昼食作り】



【いかだ体験】

② 能登海チャレンジ(海岸清掃、SUP体験、砂像造り体験、磯遊び)



【海岸清掃】



【SUP体験】



【磯遊び】



【砂像造り】

③ 能登山チャレンジ(宝達山登山)



④ 弥生人チャレンジ(弥生人体験、火起こし体験、まが玉作り)



【火起こし体験】



【まが玉作り】



【弥生遺跡見学】